

エコアクション21

環境経営活動レポート

2020. 6. 1~2021. 5. 31



2021年6月18日作成

株式会社 鹿 熊 組

目 次

1. 環境方針
2. 事業内容
 - 1) 事業所名及び代表者名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者及び担当者
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境目標
5. 環境活動の取組結果と評価
 - 1) 環境活動の取組結果
 - 2) 環境活動の取組結果の評価
 - 3) 環境への取り組み
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

1. 環境方針

【環境に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

【環境方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 事務用品のグリーン購入への取り組みを行います。
- ⑤ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑥ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

2020年6月18日

長野県長野市大字鶴賀緑町
1631番地3号

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聡

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 聡

2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号
機材センター 長野県長野市真島町川合北宮島2036番地

3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者		新井 重隆
環境管理担当者	管理部	鹿熊 弘
	土木部	大谷 章彦
	建築部	中村 稔
	環境管理事務局	管理部 鹿熊 弘
連絡先	TEL	026-235-3311
	FAX	026-235-3315
	HP	http://www/kakumagumi.com
	E-mail	info@kakumagumi.com

4) 事業内容

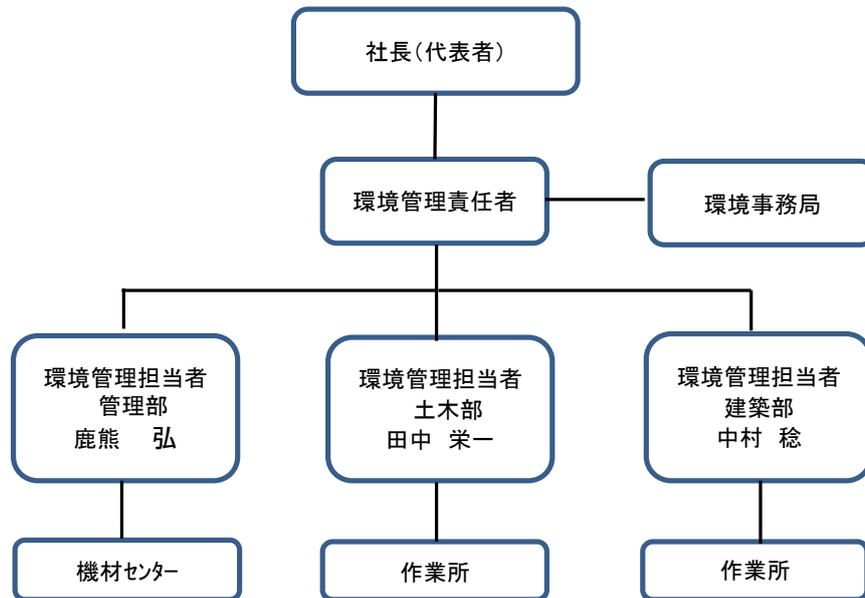
総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、
内装仕上、水道施設工事業

5) 事業規模

完成工事高		
59期	2,482百万円	(2017年6月1日～2018年5月31日)
60期	2,177百万円	(2018年6月1日～2019年5月31日)
61期	3,017百万円	(2019年6月1日～2020年5月31日)
62期	4,022百万円	(2020年6月1日～2021年5月31日)
従業員数	86人	
本社床面積	1132.1m ²	
機材センター床面積	5963.6m ²	

3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者・部門担当者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告・ 環境活動レポートの確認 環境事務局の設立、担当者の任命
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの計画・実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動の内部コミュニケーションの実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境目標

2019年(61期)の実績値を基準値とし、2020年の1年間の目標値、環境活動計画及び具体的施策を下表の通り策定した。

	目標値	目標達成に向けての計画・施策
二酸化炭素削減	電力の削減 基準年度実績 161,053 kWh 2019年度 排出係数0.518 83,425 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数: 0.462 2020年度目標 160,248 kWh 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 83,008 kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2021年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2022年度目標 前年比-0.5% 98.5%	1. 空調温度の適正化(冷房25度暖房20度) 2. 時間帯消灯・機器電源OFF(昼休憩・外出時等) 3. 時間帯消灯・機器電源OFF(休日・夜間) 4. 効率化による残業・休日出勤削減 5. 空間利用(在室人員のまとまり)の工夫 6. 省電設定、省電機器の導入の追加検討 7. 社内ルールの遵守(制限・約束) 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 前年検討事項の実施への取組 3. 社員行動の不良部の改善 4. 残業・休日出勤の削減 5. 更なる向上のための手順改善 6. 社内ルールの遵守
	燃料の削減 基準年度実績 2019年度 ガソリン 77,068 ℓ 軽油 65,802 ℓ 灯油 18,505 ℓ 年 391,463 Kg-CO2 2020年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 389,505 Kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2021年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2022年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(通勤・移動車両) 1. エコドライブの導入 2. 日常点検の励行 3. 相乗りの推進 4. 運行経路の適正化 5. 省エネ車両への交換(性能低下車の入替) (重機械) 1. アイドリング時間の短縮 2. 休憩時間のエンジンストップ 3. 過剰負荷の軽減(輸送) 1. 共積みの励行 2. 配送経路の適正化・集約化(設備) 1. 定期点検の励行 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 重点事項の推進(重点事項) ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進 ・関係会社の協力による適正機械の使用促進 ・作業手順の適正化による過剰負荷の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 ・省エネルギー型機器の導入の可能性の検討 ・新規改善策の検討
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減 基準年度実績 2019年度 6,480 kg 2020年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 6,448 kg ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2021年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2022年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 (減量) 1. データベース化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量 中期計画 1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進(重点) ・不良者の発見と指導 ・周知・徹底 ・整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料) ・保管書類の削減(保管基準、保管方法)
	産業廃棄物の削減・リサイクル化 基準年度実績 2019年度 6,635.48 t 2020年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 6,602.30 t ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2021年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2022年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底(リサイクル促進) 1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上 3. 本社廃棄物の重量測定～社内への通知・減量促進 中期計画 1. 前年手段の継続 (全般) 2. 分別ボックス・スペースの必要な改善 3. 周知・徹底のための再教育(リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育
水資源使用量削減	水道水の削減 基準年度実績 2019年度 2,618.0 m ³ 2020年度目標 基準年度比 98% 削減率 -2% 目標値 2,565.64 m ³ ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2021年度目標 前年比-2.0% 96% 2022年度目標 前年比-2.0% 94%	(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育(作業所・機材) 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進 中期計画 1. 前年度の継続(作業所) 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進

5. 環境活動の取組結果と評価

1) 環境活動の取組結果

※排出係数61期は0.518で計算 62期は0.462

項目	区分	管理種別	単位	61期実績(昨年)	62期目標	62期実績	対目標比率	評価
電力の削減	本社・機材	使用量	kwh	67,508	67,170	80,893	120.4%	*
		C02換算値	kg-CO2	34,969	34,794	37,373		
	作業所	使用量	kwh	93,545	93,077	195,930	210.5%	
		C02換算値	kg-CO2	48,456	48,214	90,520		
	合計	C02換算値	kg-CO2	83,425	83,008	127,892	154.1%	

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

0

項目	区分	管理種別	単位	61期実績(昨年)	62期目標	62期実績	対目標比率	評価
燃料の削減(1)	ガソリン	使用量	リットル	73,369	73,003	45,288	62.0%	◎
		C02換算値	kg-CO2	170,217	169,366	105,068		
		作業所	使用量	リットル	3,698	3,680		
	C02換算値	kg-CO2	8,580	8,537	17,536			
	合計	C02換算値	kg-CO2	178,797	177,903	122,604	68.9%	◎
	軽油	使用量	リットル	7,696	7,658	6,868	89.7%	◎
		C02換算値	kg-CO2	19,856	19,756	17,719		
		作業所	使用量	リットル	58,106	57,815		
	C02換算値	kg-CO2	149,913	149,164	238,919			
	合計	C02換算値	kg-CO2	169,769	168,920	256,638	151.9%	*
	灯油	使用量	リットル	2,519	2,506	1,546	61.7%	◎
		C02換算値	kg-CO2	6,272	6,241	3,850		
作業所		使用量	リットル	15,985	15,905	13,553		
C02換算値	kg-CO2	39,804	39,605	33,747				
合計	C02換算値	kg-CO2	46,076	45,846	37,597	82.0%	◎	
都市ガス	本社・機材	使用量	m3	9,685	9,637	10,904	113.2%	*
		C02換算値	kg-CO2	20,920	20,815	23,553		

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

項目	区分	管理種別	単位	61期実績(昨年)	62期目標	62期実績	対目標比率	評価		
CO2排出量の削減	本社・機材	C02換算値	kg-CO2	248,453	247,211	278,082	112.5%	*		
		作業所	C02換算値	kg-CO2	241,516	240,308			380,722	158.4%
		合計	C02換算値	kg-CO2	489,969	487,519			658,804	

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

項目	区分	管理種別	単位	61期実績(昨年)	62期目標	62期実績	対目標比率	評価
水使用量の削減	水道・下水	使用量	m3	844	827	896	108.3%	*
		水道	使用量	m3	1,774	1,739		
	合計	使用量	m3	2,618	2,566	1,847	72.0%	◎

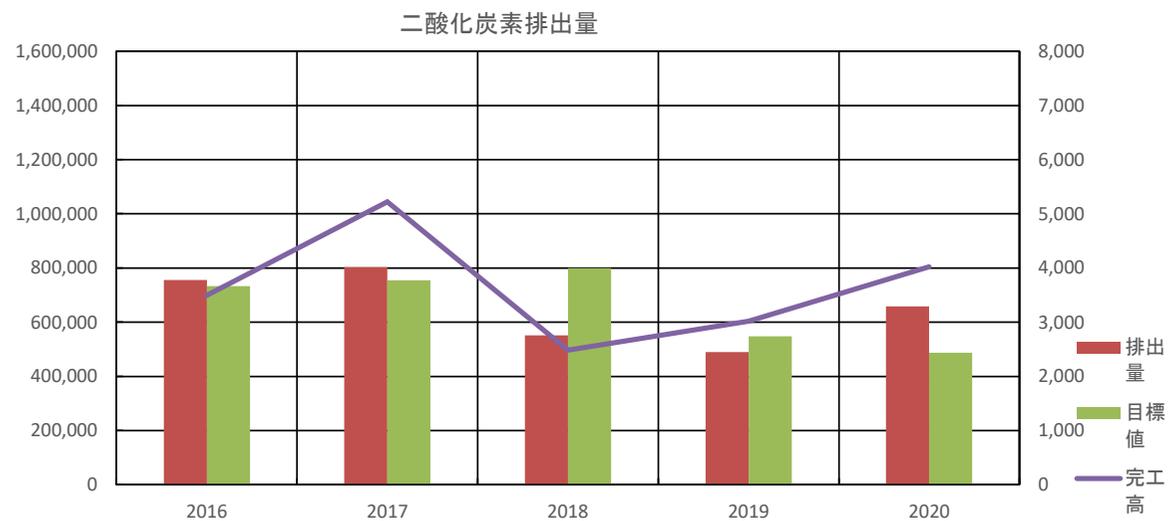
(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

項目	区分	管理種別	単位	61期実績(昨年)	62期目標	62期実績	対目標比率	評価
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	使用量	kg	6,632	6,599	6,800	103.0%	*
		産業廃棄物	全体量	t	6,757	6,723		
	再生不可率	%	1.50%	1.49%	0.37%	24.6%	◎	

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

C02排出量の推移

年度	2016	2017	2018	2019	2020	単位
排出量	755,398	803,608	550,996	489,970	658,804	kg-CO2
目標値	732,664	755,020	799,590	548,241	487,519	kg-CO2
完工高	3,494	5,220	2,482	3,017	4,022	百万円



2) 環境活動の取組結果の評価

1. 省エネルギー化(CO2排出量の削減)

項目	区分	数値評価	活動評価
電力	本社・機材	目標値+20.4%=× 	感染症対策に重点をおいた今年、密にならない空間の使用を心掛けた。結果、増加傾向である。節電への意識も高く、各部署単位の業務の効率化、時短に努めている。今後テレワークの促進により更に削減が期待できる。
	作業所	目標値+110.5%=× 	大幅な増加、昨年度の2倍の使用量である。下期に工事完成作業所が多く繁忙期が続き使用量も著しく多かった。受注内容による増分についてはやむおえないが、冬期の仮設物等への断熱対策をする等、使用量の削減が可能となるようであれば、検討の余地がある。
ガソリン	本社・機材	目標値-38%=◎ 	遠方の作業所が少なかったことが大きな要因であるが削減に成功。施工高の平準化を引き続き目指すこと、集中を回避する段取りを心かけること、十分な工期を確保すること等が、間接的ではあるが総走行距離の削減に大きな影響を与えていると考えている。
	作業所	目標値+105.4%=× 	施工高増加に伴い、作業所専用車両が増えていることが大幅増加の要因と思われる。車両についてはエコドライブに加え、軽車両等燃費率のよい車種の採用、作業所機器等についてはエコタイプ仕様の選択等による削減努力を継続していきたい。
軽油	本社・機材	目標値-10.3%=◎ 	輸送作業が主な使用目的である。遠隔地作業所への長距離運搬移動が減ったことにより減少。輸送分野においては現場への資材運搬時の相積みや、適切な運行経路の選定による削減ができていた。日々の点検整備、積載重量超過等に引き続き気を付け、削減努力を継続していく。
	作業所	目標値+60.2%=× 	受注状況、繁忙期に建設重機・小機械等の稼働が集中したことにより増加となった。今期のCO2排出量総量の40%と多くを占めている。機械の省エネ化については、当社だけでなく下請け業者を含め、省エネ型の機械導入については暖気運転の時間短縮及びこまめなエンジンカット、使用者への教育等により削減努力、省エネ機器の導入・利用については協力会を通じ、引き続きお願いしていく予定である。
灯油	本社・機材	目標値-38.3%=◎ 	暖房目的で使用。大幅に減少したのは、灯油ストーブの使用が減った事・主にガスにより暖房を使用していることが要因である。来期においても衣服調整等で削減は可能である。
	作業所	目標値-14.8%=◎ 	冬期の暖房、コンクリートの養生用ヒーター等に効率的なものを引き続き選択し、使用することにより今後も減量につなげたい。こまめな暖房器具の調整などの工夫が結果に繋がっている。今後も継続していきたい。
都市ガス	本社・機材	目標値+13.2%=× 	冷暖房に使用。今期感染症対策の為、密にならない空間を作ることを中心としたこと・灯油ストーブの使用を減らしたことで増加傾向にある。

(まとめ)

今年度は、感染症対策に重点をおいた。社員同士が密にならないよう工夫をしていたが、電気・ガス使用量増加につながってしまった。

ガソリンの使用においては遠方の作業所が少なかったことから削減に成功しているが、軽油の使用に関しては施工高増・繁忙期が続いたこともあり大幅に増加している。建設業において、CO2排出量抑制効果が最も高いのは軽油を使用する重機・車両の稼働を削減である。今後、施工機械の見直し・電動式建設機械の導入を推進する(定置式クレーン等の活用)・日頃の掘削積込作業時、ムダのない動作で燃費効率の削減努力を続けていく。

2. 廃棄物排出量の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
廃棄物	一般廃棄物	(コピー用紙購入量) 目標値+3%=◎ 	G-Suiteを活用したデータ化、テレワークに伴うデータ化は1年で顕著に進んだ。購入量は増加しているが、来期大きく減少が期待できる。今後、裏紙利用(メモ用紙等で利用)・コピー、印刷の工夫による紙の削減を社内で周知し実行していく。
	産業廃棄物	(産業廃棄物総量) 目標値-0.1%=○	受注内容により、大きく変化するところであり、評価が非常に難しい項目ではある。今後においてもリサイクル率をあげる事・電子マニフェストを推進していく。
	(全産業廃棄物中の混合廃棄物の割合) 目標値1.49% 結果0.37% 	今期の数値は今後の指標となる良い数値である。今後も0.3%ほどを維持できるように分別を心掛けていきたい。混合廃棄物の絶対量を作業所それぞれで如何に減らすことができるのかを再度考えていかなければならない。	

まとめ

産業廃棄物の総量については、今後とも受注状況により変化するという現実があり、その点についての変化は今後も想定が難しい処である。しかしながら、混合廃棄物については、努力と根気による処が大きく左右する処であり、今後とも可能な限りの3R活動の推進を図り、確実な分別による混合型の廃棄物の削減についてもその努力を継続する予定です。

3. 水資源使用料の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
水資源	本社・機材	目標値+8.3%=×	昨年度、漏水があったことも要因であるが大幅に削減達成できている。社員の節水意識は非常に高い。今期以上の削減は、厳しく今後横ばいが想定される。
	作業所	目標値-45.3%=◎ 	大幅な削減であるが、受注内容に拠る為指標として難しいところである。工事で使用する水に関しては、井戸や地下水の有効利用により不必要な水の使用の抑制を今後とも実施していく。

まとめ

現場での使用水量については、受注要件により大きく左右されるが、用水等を養生散水として使用する事、排水時には適切な処理の実施による事、自然循環を心がけ水道水の使用量を減量できるよう努力を期待している。本社においても、第二社屋への水圧調整・トイレ用節水機の使用等を今後検討する。

4. グリーン購入

○本社: 昨年導入グループウェアG-suiteの活用が非常に浸透してきている。感染症対策の為のテレワークの促進に伴いデータ化・ペーパーレス化が加速している。
日頃から購入頻度の高い物品に関して、社内グリーン購入推奨品目と位置づけ購入時には積極的に選択していく。
○現場: 現場購入品においても特に紙・トイレトペーパーにおいてグリーン購入を積極的に選択して購入しております。又、近年グリーン商品も品数が増えているため各現場事積極的に採用していきます。

5. 製品への環境配慮

公共工事においては、受注物件を精査し、100%ではないが半数以上の現場において、工法・機械・材料・安全管理等の環境配慮提案がなされている。建築部においての民間受注工事についても、使用する材料、工法等についての環境配慮(創エネ・省エネ・断熱対策による自然エネルギー配慮)提案。

6. 環境活動

本社外周、機材センター外周、各施工現場において、周辺環境の美化活動を実施してきた。今後も都度継続していきます。

活動内容について、組織的な環境活動は、毎週の本社及び機材センター周辺の清掃を実施、植栽植え替え等しているが、現場単位での活動では、現場及び事務所周辺の側溝清掃、草刈り、緑化、用水路清掃・景観活動、除雪等の支援活動等多岐に渡る活動を実施しており、地域住民の方・工事発注者の方より高く評価いただいています。

また、工事現場のイメージアップにもつながっており、今後も地域に根差した積極的な活動を実施していきます。



鹿熊組エコアクションへの取り組み



除雪作業の様子



現場周辺清掃の様子



休憩所にて使用する照明・パソコン・冷暖房その他の電源は、ソーラー発電を利用し自然エネルギーの活用に努めた。



地下水利用し
水の使用の抑制



環境配慮型発電機の使用により
油流出防止の実施



鹿熊組エコアクションへの取り組み



園児との交流会



学生インターンシップの様子



長野工業高校生徒を招待し、



社内での取り組み
分別の徹底



社内での取り組み
節水ポスター



元の梁を再利用した
つち茂物産新築工事



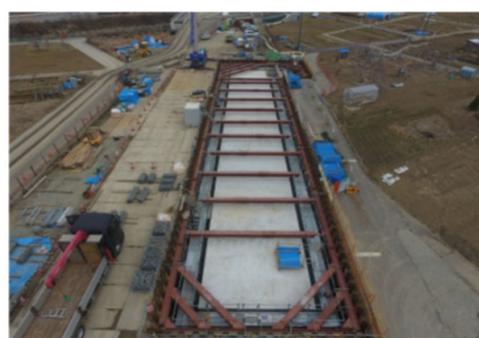
鹿熊組エコアクションへの取り組み



21世紀の長野を彩るにふさわしい商業施設のあり方をお客様とともに考え、一貫した取り組みを行っていきます。



福島築堤その2工事



柳原貯留槽設置他工事

公共公益性の高い事業活動に取り組み、快適な地域基盤づくりをお手伝いしています。



注文住宅、戸建新築住宅、増改築・リノベーション、医療施設、マンション・収益物件、店舗・商業施設、エコ住宅、セカンドハウス・別荘、高齢者向け住宅など様々な分野で建築家との家づくりをすることにより、お客様のご希望に副った家を実現します。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等) ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニフェスト発行、管理 ・マニフェスト保管(5年間) ・産廃管理計画書・報告書の提出(毎年6月) ・車輛への表示 	遵守 違反なし
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出	遵守 違反なし
大気汚染防止法	建設機械に関する指針	建設帰化に関する技術指針に則り、排出ガス基準を遵守	遵守 違反なし
労働安全衛生法	石綿障害予防規則	石綿飛散防止対策マニュアルに則り、石渡ばく露防止の徹底	遵守 違反なし
じん肺法	粉塵障害予防規則	工事により発生する粉塵の抑制・拡散防止・保護具着装	遵守 違反なし
グリーン購入法	事務用品の購入	環境物品の調査、購入品目設定・調達	品目調査・設定・調達適切に実施
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規	・規制適合車の使用	遵守 違反なし
消防法 消防法施行令 消防法施工規	油類の流出防止	・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等)	遵守 違反なし

2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟・環境関連苦情等について、この8年発生していません。

7. 代表者の評価と見直し

エコアクション21の取組を開始し早いもので、7年が経過しました。認証取得のため様々な基本データのとりまとめ、目標設定、手順そして社内での周知方法等を苦心して検討し、本日迄関与してきたすべての方に感謝をしています。

この活動を開始すると決め、7年間運用を続けてきた結果として、社員皆の意識の中に、建設という資源消費がどうしても発生してしまう、環境配慮とは逆説的な業界に籍を置きながらも、未来を見据えた、持続可能社会の実現、環境負荷の低減への意欲、環境を意識した行動がみられる様になった事が、この取組を開始してから7年の成果と考えます。

まだまだ取組の内容に不十分な面もあります。取組目標についても、建設業特有の部分(受注型)を考慮した目標の設定とはなっていないため、年度年度の受注状況に数値が振り回されている面もあります。

また、なかなか新しい目標設定ができていないので、次回更新以降は、要求事項を踏まえたうえで、新たな目標を設定し、進んでいかれるよう思案していきたいと考えています。

取組全般の評価ですが、工事の施工量が昨年度から大幅に上がり大変忙しい一年となったことから、結果として本社に関する数字は比較的安定しているが、作業所に関わる事項は大幅なUPとなり、二酸化炭素排出量の大部分を占める、電力及び化石燃料の使用量が上がってしまうという結果を生んだと考えられます。

前文にて今後の目標の在り方を考える必要があると記しましたが、使用量での目標設定は建設業では毎年大きく変化する為、より具体的な一要素に絞った目標設定を考えて行くべきだと考えています。

当社の社屋も築年数が約半世紀、様々に修繕等を行い維持してきましたが、施設劣化による影響が毎年出ています。

EA21の取組を始めた事で、月次の数値管理をしている事により、老朽設備の破損等による影響を被害が大きくなる前に発見し修理を含めた処置対応がしやすくなった事は経営的にも大きいと感じています。毎月はっきりと数値、金額として出てくるため、今期も漏水による水資源の損失に気が付くことができました。エコアクション21の環境活動そして資源の使用量に目を向けた結果として、会社としての経営への被害を最小限に抑えることができたのはまことにありがたい話であると感じています。今後も活動を通じ持続可能な社会の実現に向けた取組を積極的に進めてまいります。

環境レポートの体裁が少し変化したことに気が付かれましたでしょうか。当社の作成担当者が例年のレポートを参考に、少しづつではありますがより見やすい、わかりやすい形を考え工夫してくれました。少しの工夫で雰囲気もガラッと変わるものです。

よりよい明日の為の一つの工夫を、会社全体で考えそして向き合っていきましょう。

令和3年6月18日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聡